

九州現地調査



海上からの視察

目 次

九州現地調査	
九州現地調査の成果と今後の課題.....	2
民主的医療機関勤務のきっかけの地.....	3
水俣、水俣病と私。そして決意.....	4
2015年九州現地調査	
(諫早湾潮受け堤防、水俣病被災地)に参加して.....	5
自分の生き方を考えさせられた旅.....	6
JNEP情報	7
活動日誌.....	8

九州現地調査の成果と今後の課題

九州現地調査団団長
弁護士 尾崎 俊之

1. 2015年の九州現地調査は8月21日(金)～23日(日)の3日間で取り组まれました。

行程は長崎空港から入り、1日目に有明の調査。2日目に水俣の海上からの現地調査と患者との交流会。3日目は水俣病総決起集会に参加後、高千穂峡での楽しいひとときを過ごし、熊本空港から帰路につきました。

2. 有明現地調査は、諫早湾潮受堤防で漁民原告の説明がありました。堤防内の貯水池にアオコが発生して定期的に海に排水され、海をより汚している現状を確認。裁判上の開門義務がありながらそれを実現しようとならない国の態度に、一同心からの怒りを感じざるを得ませんでした。

「開門」の実現を求める正当性を国民世論とするため、東京での周知を目指す活動が求められます。

3. 水俣では、拠点病院である水俣協立病院屋上からチッソ工場を見下ろしながら説明を受けた後、今年のテーマである「不知火海クルージング」を体験しました。

クルージングは、不知火海の東側を水俣から津奈木町、芦北町を北上して西側に回り、北から姫戸町(地域外)、竜ヶ岳町(地域内)、新和町(地域外)、河浦町(地域外)へと、これらの地を右に見ながら南下しつつ、同時に御所浦島(地域内)、獅子島(地域内)、伊唐島(地域内)の島々を左手に見ました。パノラマ的景観が、透き通った晴天の下で目から脳裏に焼き付けられ、わかりやすい説明とあいまって大いに理解を深めました。

不知火海沿岸住民はどこに住んでいようと、水銀に汚染された魚介類を食べていたであろうことが見て取れ、地域によつての線引きは不当だという思いを共有しました。

4. 私が、ノーモア・ミナマタ東京訴訟弁護団長でもあることから、今度こそはと目指している水俣病の最終的な解決に向けての課題と東京地裁における裁判特有の課題について述べます。

水俣病救済特別措置法制定時の政府の触れ込みは、「あたうる限りの救済」であったはずですが、救済対象者を居住地域や出生年により線引きし、さらに2012年7月31日で強引に申請を締め切りました。そのため、ノーモア・ミナマタ第2次訴訟が提起され、原告数は現在1100名を超えています。

さらに追加提訴する者・残される者を含むすべての被害者を救済するルールを作り、恒久的に1人も残さない救済のシステム構築を目指すことになります。

そのためには、これまでの訴訟が濃厚汚染地域居住者の訴訟であったのと異なり、これまで救済対象とされなかった地域外・年代外の者を被害者と認めさせるため、従前にもまして、「診断の確実性」「汚染への暴露の確実性」の両面で説得ある立証が求められます。熊本・近畿・東京の弁護団はその立証に全力をあげて取り組んでいるところです。

5. 次に東京裁判の特有の問題として、充実した裁判の進行を実現するため大法廷での審理を継続することが必要です。僅かな傍聴者しか入れない、しかも期日も頻繁に入れられるような小法廷での審理では、万遺漏なき訴訟活動は望めません。そのためには大法廷の傍聴席を毎回100名以上で埋めなくてはなりません。

現地調査に参加された方々、とりわけ初参加の方には、次回10月7日、次々回11月27日、次々々回1月27日の各午後2時以降の参加をお願いしています。

公害・地球懇のみなさんにも裁判の傍聴を心からお願いし、報告を終わります。

民主的医療機関勤務きっかけの地

愛媛生協病院 1年目研修医 水本 潤希

九州現地調査に途中から参加いたしました。私にとって水俣の地は、医療・医師とはかくあるべきという像を抱く端緒でもありましたし、医師となってから再び水俣に行く機会を頂いて非常にありがたく思っています。

水俣病との出会いは、東京大学1年生の時に、協同ふじさきクリニックで行われた水俣病検診でした。ボランティアとして参加し、水俣病患者がまだ診断すらつけられずに神経症状に日々苦しんでいる姿を目の当たりにし、なんとしても水俣病についてもっと知らなければ、もっと伝えなければと感じました。結局、学生時代に4回も水俣を訪れる機会がありました。5年前にはじめて参加した水俣現地調査では、倉岳の頂上から眼前に広がる雄大な景色と、認定地域を定めるために御所浦との間にひかれている目に見えない境界線を写真に収め、当分の間、携帯の待ち受け画面にしていました。水俣病大検診にも参加し、患者・被害者にすらなれない方々に出会いました。今思うと、無差別平等の医療福祉を理念に掲げる医療機関に就職しようと思ったきっかけは、このあたりにあるのかもしれませんが。



水俣協立病院屋上からチッソ工場を見る

今回は、学生時代に非常にお世話になった東京民医連の永山さんに誘われて、2日目の水俣現地調査からの参加となりました。水俣湾・不知火海の上にて、認定地域と非認定地域の境界線をなぞるようなクルージングでした。5年前にも感じたことですが、こんなにも明媚かつ広大な海が汚染されたのだという驚きと、線引きの不当性が改めて伝わってきました。境界線が非常に複雑にひかれていることも良くわかりましたし、いかに賠償範囲を低くするための恣意的かつ出鱈目な線引きかということに、水俣病患者が受けている現在まで続く何重もの被害を感じずにはいられませんでした。

故原田正純医師の言うとおりに、水俣は社会を映す鏡です。「水俣病を起こした真の原因は、その人を人と思わない状況(差別)であり、被害を拡大し、未だにその救済を怠っているのも、人を人と思わない人間差別にある」(1989)という言葉は、いまの社会情勢をそのまま言い表しているような気がしてなりません。近々、医師を目指す予備校生に講演をする機会があるので、水俣で感じたことを伝えようと思います。これからも、水俣にはずっと関わってまいりたいと思っています。中国、四国地方でなにか動きがある際には、連絡を頂けたら幸いです。



水俣病総決起集会

水俣、水俣病と私。そして決意

大田区職員労働組合 西 嶋 和 徳

今回、九州現地調査に参加した動機は、50歳を迎え、これからの人生の柱(生涯の仕事としている障害者福祉の仕事、そして実家のある八代をベースに含みつつも)に、ミナマタ(八代海)・有明海も自分の中に確固たるものとして据えることを自分に問うためであった。

私は田浦町(現在の芦北町)井牟田で3歳まで育った。教員である父が井牟田小学校に赴任することになり、生まれたばかりの私と父母は八代市の南日奈久港から引っ越し道具を積んで井牟田の港に着き、小学校の目の前の教員住宅に住んだ。

私は幼稚園・小学時代、夜や夜中、足がだるくてだるくて相当の時間泣くことがあった。母が足をさすりながら「大丈夫だろか」と言っていたことを思い出す。父が3年前に他界して以降、八代から佐敷・水俣方面に向かう(佐敷のでこぼん、大野温泉に実はよく遊びに行く)時、当時のことを母はよく話すようになった。「大丈夫だろか」の意味は「水俣病じゃなかるうか」ということであった。

「井牟田の頃は魚ばっか食いよった」「漁師さんのチンば毎日学校に持ってこらす。校長先生は仕事はせんで、漁師からもろた魚ば午前中から腹ばとってか、うちに持って来寄らした」「なまこどま、どんぶりで食い寄った」「はだらもたいぎゃ食うた。揚げてから、パッーと酔につけてからね」「お父さんな、猫んごて、魚好きだったけん、チンの塩焼きの身ば食うてから、3回はお湯ばかけてから吸いよらした。」



水俣の皆さんと交流

「あんたが天草の維和島の古民家(将来役立てようと約4年前に購入)ば買って、すぐ船の免許ば取りに行ってから“もうちっと年取ったら、やっちろかいば天草・八代・水俣と船で動きながら、何かするばい”、て言いよったでしょがね、お父さんと言いよったたい、“和徳はこまかころ、井牟田の漁師さんたちにたいぎゃ、かわいがってもろとったけんが何かあつとだろな”ってね」

「漁師さんに舟に乗せてもろて、魚捕りに行つとる時も、あんたは舟の上で泣きもせんでよう寝とったたい」「あんたこつば、“かんのんさん”(かずのりさん→かんのりさん→かんのんさんと変化していったと母の談)って呼んでから、賽銭(小遣い銭)ばあんたにあげよらしたと」

いつの頃か定かではないが、井牟田の町の上田浦駅から田浦駅に向かう途中にあるトンネル(波多島付近)入口で夫婦の自殺があった。(父と母は夫婦のことをよく知っていて)「覚えとらんどばってんが和徳ばよう抱っこしてやりよらしたたい。水俣病ば苦ししてのごた」、と父がつぶやいたことは鮮明に記憶している。

28歳で井牟田小学校に勤務した父は、それまで津南中学校(現在の津奈木町立津奈木中学校)、佐敷中学校等を転勤した。井牟田小学校の後は海浦、田浦小学校と相当の期間、水俣・津奈木・芦北だったので、教育現場を通して水俣病を見ていたかもしれないが、話を聞く機会を逸してしまった。熊教組の組合員だった父が小学生の私を連れて見た白黒フィルムは明らかに水俣病を告発する映像だった。あの女兒とネコはしっかりと覚えている。

大学に行く気はさらさらなく、障害者施設で雇ってもらいたいと思っていた私は、受験した二つの大学の不合格通知が届いた後、卒業式の10日前、シュラフと1万円弱のお金を持ち、「卒業式には帰る」と置き手紙して自転車をこぎはじめ、八代、芦北、水俣と国道3号線を鹿児島島に向かった。私は何と「明水園」に行き、「就職懇願」したのであった。

「社会福祉の大学で学んで(こういう)福祉施設で働く方がもっとあなたがイメージしている素晴らしい仕事ができるよ」と諭されたことが転機となり、社会福祉学部に進んだ。ある意味、明水園を訪ねたことが今日につながっている。

長々と、「私と水俣、水俣病」についてお読みいただいた。羊水から出たばかりの私はそのまま八代海の水・風・空・気そして歴史を無意識に体内に取り込みながら育ったんだろう、と今回の企画「～海上からの汚染の不知火海を見る～不知火海クルージング」に参加しながら、強烈に感じた。

五感を含む様々な感覚から響いてきた。「何か呼ばれているものはこれだな」と感じた。

どれほどの役に立てるかわからないが、近い将来大田区と八代・天草の二つを拠点として動き出す時、私は「すべての水俣病被害者の救済」の運動を、今後の人生の柱の一つにすることを決意した。



海上からの視察

これまで、担ってこられた皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

2015年九州現地調査(諫早湾潮受け堤防、水俣病被災地)に参加して

東京公害患者と家族の会事務局長 増田重美



潮受け堤防にて地元の皆さんのお話を聞く

「よみがえれ！有明海訴訟」を支援する全国の会事務局長の岩井さんとみずほ漁協の石田漁協長さんから堤防締切で漁師の生活が成り立たなくなっているとの説明がありました。

堤防内の水は濁った緑色で、外の海とはまるで違う。堤防内から汚濁水を排水するため、魚も貝もまるで採れなくなり、クラゲ漁でしのいでいます。ノリ被害が大きく、赤潮被害も出て、あさり養殖はダメになり、わずかにカキ漁でしのいでいるとのことでした。

堤防内の水は濁った緑色で、外の海とはまるで違う。堤防内から汚濁水を排水するため、魚も貝もまるで取れなくなり、クラゲ漁でしのいでいます。ノリ被害が大きく、赤潮被害も出て、あさり養殖はダメになり、わずかにカキ漁でしのいでいるとのことでした。

現地調査に東京公害患者と家族の会の代表として参加しました。早朝、羽田空港集合で一路長崎空港へ、一行はバスに乗り 諫早湾の潮受け堤防の調査へ向かいます。



潮受け堤防

国・農水省は確定判決が出た後も漁民一人に一日一万円の罰金を払いながら開門を先延ばしにしています。つい先日、「漁業権は10年だから請求権も失効している」という珍説を持ち出し、さすがに開門反対派の漁師もあきれているとのこと。まさに農水省のメンツしか考えない態度に腹が立ちます。このような中、離業する漁師も出ており高齢化も進んでいます。早く開門をさせねばとの思いを強くしました。

二日目は朝8時にホテルを出発し水俣まで移動しました。今回は海からの現地調査です。およそ3時間かけて不知火海から天草の島々を船で回り、汚染の広がりを実体験しました。

風はけっこう吹いているのですが海の状態は地元の方も驚くほど穏やかでした。チッソは数か所から海に水銀を垂れ流し、その影響は不知火湾内にとどまらず、海の中に被害の線引きなど出来ようがありません。目の前の現実を見て地図ではわからない事を知ることができました。

この間の調査によって被害の実態が明らかになってきています。たたかいは熊本だけでなく新潟、名古屋、東京でも新たなたたかいは始まっています。“すべての被害者の救済を”と運動を大きく広げることが勝利に結びつきます。

翌日の集会では現地水俣の患者さん、新潟の被害者も訴えました。集会アピールでは、“多くの患者さんを掘り起こす健康・環境調査を国や県がやらないのであれば自分たちの手で行う”ことを決意しました。

さらに福島原発被害者と共にたたかうことを確認しました。公害被害者の団結をさらに強めねば、の想いを強くした現地調査でした。

自分の生き方を考えさせられた旅

大田病院 加藤千鶴子



水俣病総決起集会

今回初めて水俣の現地調査に参加させていただきました。東京民医連の検診は1度お手伝いさせていただきましたが、何をどうしたらいいのかわからなくて、教えていただきながら右往左往していました。検診に来られた方の中には私よりも若い方が何人もいらっしゃいました。

思いのほか症状が出ている方もいて、生活歴などを聞く中で、これまでの日々の生活も見えて事の重大さを感じました。

地元にはいたころは魚をお皿に何杯食べていたとか聞くと、胸に詰まるものを感じ切なくなる思いでした。私はまだ水俣病の患者がいて、この問題が終わっていないという事をつい最近になって考えるようになりました。

私たち医療人は水俣病という疾患を社会的な疾患としてきちんととらえ病態を知ること、民医連の職員としてこのような公害が二度と起こらないように、そしてすべての患者が救済されるように運動していかなければならないと実感しました。本人には何の責任もないのに、普通の人としての人生を送る権利を奪われ、国や企業の利益が優先し救済されないことは決して許されることではないと、このことを考えるたびに怒りがこみ上げてきます。

今回の現地調査では、これまで多くの方がこの運動を支えていらしたことに、何も知らなかった私は大変驚きました。諫早湾の潮受け堤防では調整池や埋め立て地の根拠が少しも見いだせず、アオコとユスリカが大発生している広大な死の池になっていました。現地の方の話を聞いている間、ユスリカが前の方の洋服に沢山つき、人がいられるようなところではありませんでした。不知火海の船上からの視察では、魚は自由に泳いでいるのに認定の線引きをしているという誰が考えても意味のないことが起きていることなど、現地に行ってみなければわからないことがたくさんありました。



潮受け堤防から諫早湾を臨む

不知火海は穏やかな自然豊かな海でしたが、その中でとてつもない大きな悲劇が起きたことを忘れてはいけなと自分の胸に刻みました。

これまで活動してきたみなさんの熱い思いには本当に敬服するばかりで、私もこんな風に志高く運動に参加していきたいと思いました。まずは少しでも多くの方にこのことを知っていただけるように努めてまいりたいと思います。本当に自分の生き方を考えさせられる旅になりました。

JNEP情報(2015年9月)

環境大臣が千葉県・愛知県の石炭火発計画に「是認できない」と意見

環境大臣は「千葉袖ヶ浦石炭火力発電所建設計画」（株式会社千葉袖ヶ浦エナジー）の石炭火発環境影響評価法の計画段階配慮書手続きにおいて「是認することはできない」との意見を述べた。当該石炭火発計画は200万kW、年間のCO2排出量は1100～1300万トンと推定され、日本の排出量の約1%に相当する。出資会社は出光興産株式会社、九州電力株式会社、東京ガス株式会社である。

また、環境大臣は中部電力「武豊火力発電所リプレース計画」（石油火力の石炭火力転換計画）について、是認することはできない」との意見を述べた。当該石炭火発計画は107万kW、年間のCO2排出量は600～670万トンと推定され、日本の排出量の約0.5%に相当する。

日本全体では温暖化対策に逆行する48基2350万kWの石炭火力発電所新設計画があり、全部仮に運転されると日本の温室効果ガスの10%以上にあたる1.4億トンのCO2が排出され、日本の温暖化対策を台無しにするほか、石炭は汚染物質を含み化石燃料の中でも大気汚染物質の排出が桁違いに多いので、発電所周辺では大気汚染物質、重金属、有害化学物質などの排出も懸念される。

日本全体の石炭火発建設計画はNGOによる石炭火発の情報サイト

<http://sekitan.jp/>

で点検でき、近所で計画がないかどうか点検でき、環境影響評価手続きのスケジュールなども見られる。また環境に悪い石炭の消費をわざわざ増やそうとする会社はどこかも点検できる。

公害・地球懇 活動日誌

2015年8月

1日(土)～2日(日)

◇第61回日本母親大会(神戸)

3日(月) ◇東京あおぞら連絡会理事会／清水鳩子前理事長を「ねぎらう会」

15日(土)★「戦後70年」―戦後70年にあたっての「安倍談話」

19日(水)◇JNEP常任幹事会

21日(金)～23日(日)◇九州現地調査(東京から22名の代表団)

25日(火)◇福島原発事故「千葉訴訟」

26日(水)◇千葉あおぞら連絡会「学習会」(温暖化DVD上映)

29日(土)◇JNEP2015年度第1回幹事会

- 将来世代の生存基盤の崩壊を止める、
ストップ温暖化 - COP21の取り組み」を中心に討議
- 政府の「CO2削減目標」再検討を求める署名運動促進・
DVD普及、COP21代表団派遣を決める。

30日(日)★「戦争法案」廃案・安倍政権退陣を求める

「国会包囲10万人行動」「全国100万人行動」

31日(月)◇公害総行動実行委員会事務局会議

- 9月11日開催の実行委員会事前討議
- 第40回公害総行動の「総括」と第41回公害総行動
(2016年6月1～2日)の準備

訃報

9月4日草野一浩さん(全港湾小名浜支部書記長)が亡くなりました。草野さんは2015九州現地調査団に福島原発事故被害者の代表として参加されていて、感想を書いて頂くことになっていました。ほんとうに残念としか言いようがありません。謹んでご冥福をお祈りします。

発行 : 公害・地球環境問題懇談会 (公害・地球懇/JNEP)
連絡先 : 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-1-3 サニーシティ新宿御苑10F
TEL 03-3352-4938 FAX 03-3352-9476
郵便振替 : 00140-1-80892 加入者 公害・地球環境問題懇談会
URL : <http://www.jnep.jp/>